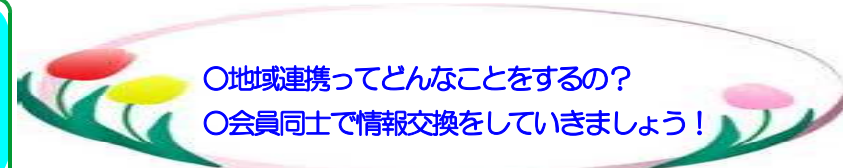


情報交換 “地域連携”



「地域を元気にする学校」

壬生町立壬生東小学校 教諭 佐山 英雄

本校の学校経営の基本理念の一つに「地域を元気にする学校」がある。「学校は社会の一部である」という理念のもと、様々な場面において地域との連携強化を図り、子どもの笑顔や学校のよさ、更に地域のよさを的確に発信するとともに、地域活動への関心の高揚とウィンウィンの関係づくりに努めている。「ネットワーク」を通して、本校の情報発信と地域活動参画の取組を紹介する。

本校のHPは更新が早い。そのため、HPをチェックしてくれる保護者も多く、夕食で学校の話で盛りあがっているなどの声をよく耳にする。学校からの情報発信が親子のコミュニケーションを深めることにつながっており、うれしい限りである。HP更新の早さの秘密は、いつもアンテナを高くして子どもたちの様子を見守ってくれている校長の存在にある。今後も学校開放デーや学級懇談会など様々な場面で学校の情報を発信していきたい。

今年度からボランティアの方と一緒に地域の公園を清掃する「地域ふれあい清掃」を始めた。この取り組みは、地域のボランティアとの交流活動・体験活動を通して、子どもの「生きる力」や勤労意欲や奉仕の精神、感謝の心を育てることをねらいとしている。この活動を通して、自分たちが使う公園を日頃からきれいにしている地域のボランティアの方の存在や活動を知るよい機会となった。また、自分たちも公園をきれいに使おうという意識を高めさせる機会にもなったようだ。

家庭や地域の教育力を高めるために学校として何ができるか。今後も地域を元気にする取組を通して考えていきたい。



<地域ふれあい清掃の様子>

「わたしたち子ども例幣使」～とちぎアシストネットの実践～

栃木市教育委員会事務局生涯学習課
副主幹兼社会教育主事 木村 信孝

栃木市では、「学校・家庭・地域の連携」を進めるため平成24年度より教育システム‘とちぎ未来アシストネット’を導入しています。このシステムの活用により、現在は多くの地域住民が学校において学校支援ボランティア活動を行うとともに児童生徒が‘学校から地域へ’活動の場をひろげています。

写真は、11月17日（火）に栃木第三小学校（小松光博校長）の4年生59名が、学区内にある国重要伝統的建造物群保存地区を通る例幣使街道で、例幣使や侍に扮して江戸時代の様子を再現した「子ども例幣使行列」の様です。

同校では、総合的な学習の時間に地元の歴史を学んでいますが、今回、その過程でお世話になった住民団体「栃木の例幣使街道を考える会」の協力を得て、行列を体験することができました。

子どもたちは、本番を迎えるまで当時の様子や衣装等を調査し、身の回りにあるもので着物やかごを作り、地域の方から歩き方等の指導を受けてきました。当日は地域住民や保護者等の大人の方もたくさん集まり、まちをあげてのお祭りのようでした。

子どもたちの学習効果が上がったことはもちろん、学校と地域が連携した‘まちづくり’にも発展した取組でした。

今後も栃木市では‘とちぎ未来アシストネット’をとおして学校・地域を応援していきます。



<子ども例幣使行列の様子>